


Slack と Teams

完全比較ガイド



自動化

 最近使用したもの

 すべてのワークフロー

 アプリ

 ワークフロービルダー



これからの企業の成長は、いかにメール、チャット、ビデオなどのサイロ化したツールから脱却して、新しい Work OS (仕事の基本システム) を導入できるかどうかにかかっています。

Microsoft Teams は従業員のコミュニケーションで重要な役割を果たすものの、現代の仕事は組織全体の会話、アプリ、システム、データにまたがって行われます。Microsoft 365 内でのエンゲージメント促進に最適化された Teams は、ミーティングとチャットに重点を置く一方で、その利用は SharePoint の組織構造に制約されます。そのため従業員は仕事に必要なコンテキストを把握するのに、分断されたツールや会話を行き来して情報をつなぎ合わせなければなりません。このような制約は生産性の低下や意思決定の遅れにつながる可能性があり、AI が関連情報を効果的に抽出するうえでも足かせとなり得ます。

Slack はエージェント時代に真に対応した Work OS です。オープンで接続された単一のプラットフォームに、人、アプリ、データ、AI エージェントを集約できます。コンテキストが共有されることで、従業員と AI エージェントは全体像を踏まえて業務を進め、より効率的にコラボレーションし、より迅速かつスマートに意思決定できます。AI 活用がますます本格化する社会において、コンテキストの共有は従業員にもエージェントにも不可欠な燃料のようなもの。これなくして AI の価値をフルに引き出すことはできません。

このガイドでは、従業員や IT チーム、会社の収益に与える影響が大きい 18 カテゴリーで、Slack と Teams を詳しく比較します。



Microsoft Teams



👁️ プロダクトのビジョン

Teams は Microsoft のアプリやネイティブのワークフローとの連携に最適化されています。Microsoft 365 のエコシステムと緊密に統合されていることから、組織のナレッジが断片化しがちです。

Slack は最初から、ベンダーに依存しないオープンなプラットフォームとして設計された Work OS です。Slack は Salesforce のアプリにとどまらない組織の技術スタック全体との連携と、生産性向上を目指して開発されています。

Slack では、業務をオープンで相互運用可能な接続されたスペースに一本化できます。会話、ツール、アプリ、データすべてを集約することで、AI の効果的な活用に必要なコンテキストが十分に得られます。Slack なら人間もエージェントもアクションを起こし、状況に適應して、ビジネスの成長を加速させることができます。

📐 チャンネルのアーキテクチャと拡張性

1 チームあたり 1,000 チャンネルまでの制限があります。チャンネルタイプは柔軟ではありません。チャンネルごとに Sharepoint のフォルダーが作成されるため、社内コミュニケーションのサイロ化が助長されます。

チャンネル数は無制限で、フラットで検索可能なアーキテクチャを採用。100 万を超えるユーザーを想定して開発されているため、どのようなチームでも 1 か所で運営できます。チャンネルタイプはいつでも変更可能。複数人によるダイレクトメッセージのやり取りを新しいチャンネルに移行するのも簡単です。

無秩序な拡大をストップ。チャンネル数の制限を回避するため、あるいはプライベートチャットを扱うために、重複した新しい「チーム」を作成する必要はありません。Slack は分断した社内コミュニケーションの壁を壊し、全体を可視化します。

🔄 アプリとの連携

数千ものアプリを利用できるものの、サポートされるかどうかはチャンネルタイプによって異なります。例えば、アプリの 90% は共有チャンネルではサポートされていません。また、タブ優先の UI はユーザーの仕事の流れを妨げてしまいます。

オープンでユニバーサル。数千のアプリを簡単にインストールできるだけでなく、外部とのコラボレーション用の Slack コネクトも含め、すべてのチャンネルタイプで一貫してサポートされます。

Slack を使うことで、連携アプリの定着度が 35% 向上。「ライセンスがあるのに眠っている」という事態にならないよう、技術スタックの活用を促します。³

Microsoft Teams



自動化

Power Automate が組み込まれています。Microsoft 365 アプリとの依存関係が多くあり、IT チーム向けのツールを使う必要があります。ワークフローの共有は簡単ではなく、制約により会社全体への拡張時にも問題が生じる可能性があります。

ネイティブのワークフロービルダーは、コーディングを必要としない直感的でシンプルな操作が可能。実際、ワークフローの80% は技術部門以外のユーザーによって作成されています。ワークフローは、ステップ数がどれだけ多くても、シンプルに拡張できるよう設計されています。

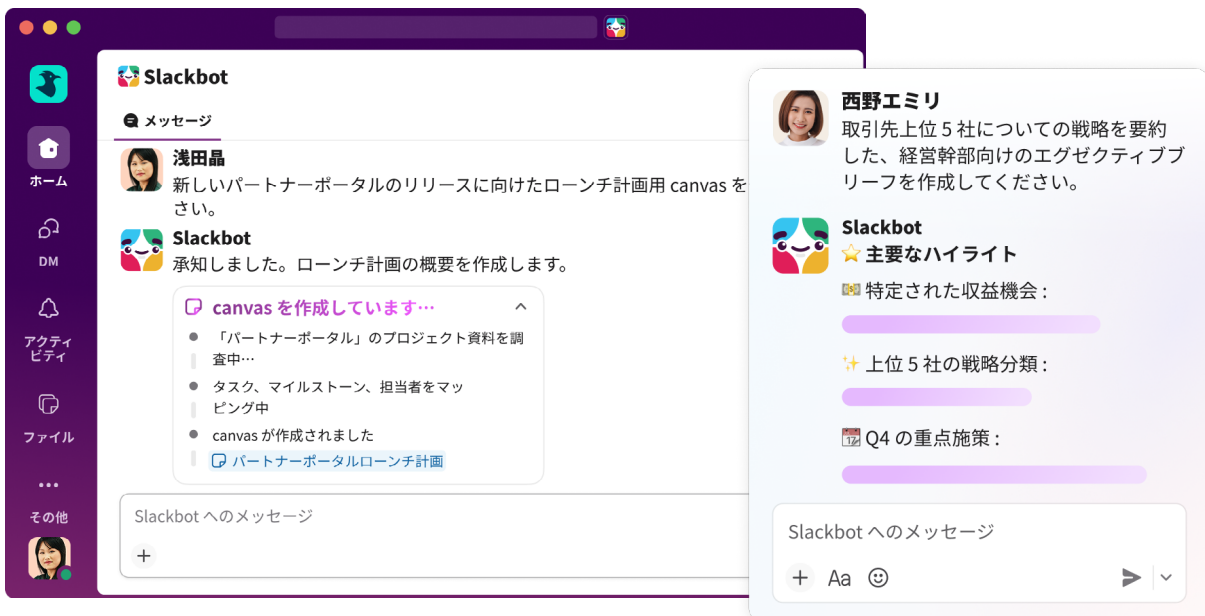
手作業での引き継ぎや承認プロセス、データ入力をチームレベルで自動化することで、平均して **35% の時間節約** を実現できます。³

あらゆる従業員のためのパーソナルエージェント

Copilot のチャットは Microsoft 365 のエコシステムからコンテキストを抽出するよう最適化されています。チャットやチャンネルで常時表示される UI がないため、ユーザーは Copilot Teams アプリに切り替えざるを得ず、仕事の流れを妨げてしまうことがあります。

Slackbot はあらゆる従業員のための、すぐに使えるパーソナル AI エージェントです。ユーザーが仕事をする場所に常駐し、ビジネスの背景を深く理解して、接続されたすべてのアプリと連携し、個別にカスタマイズされた結果を即座に返してくれます。

組織の背景を深く理解した、仕事の流れの要約や業務の自動化により、**1日あたり 90 分を節約**できます。⁷



Microsoft Teams



✨ ネイティブの AI 機能

Teams の AI は Copilot のライセンスによって制限されます。Copilot の最大の付加価値はミーティングに特化した機能です。自動化されたまとめや AI 検索の要約はありません。

検索バーからチャンネルの自動まとめまで、Slack 全体にネイティブ AI が深く組み込まれています。長期にわたって蓄積された会話、共有ファイル、連携レコードから、ユーザーに一気通貫のコンテキストを提供します。

Slack のユーザーは、情報探索時間が **36%**、ミーティング時間が **33%** 削減され、浮いた時間で付加価値の高い仕事に取り組みると報告しています。⁶

🤖 サードパーティーエージェント

複数のエージェントの利用に対応しているものの、それぞれに制限があります。Microsoft 365 のエコシステムにアクセスできるエージェントを利用するには、Copilot のライセンスが必要です。サードパーティーのカスタムエージェントは Copilot なしで利用できますが、カスタムアプリとして導入されるため、制限が適用されます。

すべてのチャンネルタイプで、あらゆるエージェントや AI アプリをシームレスかつ一貫性をもって連携できます。実装したのが **Agentforce** でも、**サードパーティーエージェント**でも、画面を切り替えることなく、すぐにエージェントを呼び出せます。エージェントは自社のリアルタイムのコンテキスト情報を利用して、自律的にアクションを起こし、タスクを実行できます。

ミーティング内容の要約だけでなく、反復タスクも担ってくれる AI エージェントを活用することで **1 週間にユーザーあたり 97 分**を節約できます。⁴



Microsoft Teams



動的なファイル共有

静的なリポジトリ。TeamsでのコラボレーションはSharePointとOneDriveの構造を中心に設計されています。そのためチャットやチャンネルで共有されるファイルは、それぞれ対応するファイル共有バックエンドにも保存されます。これはファイルの重複とITの無秩序な拡大につながります。

流れるようなコラボレーション。ワークオブジェクトにより、会話のすぐ横に、AIによる要約、リッチプレビュー、サードパーティーアプリのデータが表示されます。文脈とともに共有されたファイルを、Slack内のAIが即座にインデックス化し、チームの変化を反映させて権限を管理します。ユーザーは、特定のファイルがSlack内のどこで共有されているかを簡単に確認できます。

Slack内では毎月10億以上のファイルが共有され、アクセスのボトルネックはゼロ。ITチームが頻繁に介入したり、権限を手動で更新したりする必要なく、情報がスムーズに流れます。⁸

エンタープライズ検索

現状ではTeamsネイティブの検索UIには組み込まれていないため、Copilot for Teamsアプリに切り替える必要があります。操作がスムーズではありません。Copilotでサードパーティーコネクタを使った検索を行うには、IT部門による設定が必要です。

直感的なネイティブ検索により、自社のビジネス情報にフルにアクセスして、ナレッジを一元化できます。会話やファイルはもちろん、Microsoft 365を含むサードパーティーの連携アプリも横断した検索を行えます。

検索時間が30%短縮。どのアプリに保存されているデータも数秒で見つかります。ネイティブの検索バーから直感的に使えることで、定着率や投資対効果の向上を導けます。³

外部とのつながり

- 📁 オーガナイゼーション
- 🗂️ ワークスペース
- 👤 招待

🔍 チャンネル、ファイル、その他全体を検索

🔮 AIの回答



Slack、Googleドライブ、GitHubを検索中...

Slack	28
Googleドライブ	9
Salesforce	8
Teams	8
OneDrive	5
SharePoint	7
Jira Cloud	8

Microsoft Teams



Salesforce インテグレーション

基本的なレコード検索ができる Salesforce アプリ。編集機能はモバイル版ではサポートされていません。

売上予測や商談といった Salesforce オブジェクトを Slack から直接更新できます。CRM の会話型インターフェースとして、Slack と Salesforce は双方向でのレコード更新についてのロードマップを共有しています。

CRM データを仕事の流れの中に直接取り込めることにより、成約率が **36% 向上**し、問題解決までの時間が **32% 短縮**。⁴

外部とのコラボレーション

セットアップと IT 管理者による手動での介入が必要。チャンネルの共有がアプリのインテグレーションやワークフローに支障をきたすことがあり、コラボレーションは基本的なテキストに限定され、アカウントの切り替えも必要です。

Slack コネクトにより、自分のワークスペースから離れることなく、パートナーやベンダーなど外部のコラボレーターと簡単かつ安全に協働できます。コラボレーターは既存の連携アプリやワークフローをすべて利用できます。

フォーチュン 100 企業の **80%** が Slack コネクトを利用して案件サイクルのスピードを 4 倍にし、パートナーとのコラボレーションを管理して、ゲストアクセスの障壁を解消しています。¹

ビデオと音声によるコミュニケーション

Teams は Microsoft のエコシステム向けに強固な音声とビデオによるコミュニケーションを提供しています。そのロードマップの大部分はこれらの機能に集中しており、その結果、ミーティングに費やす時間が増えがちです。

さっと始められるハドルミーティングを用意。ネイティブの音声・ビデオ通話機能で、流れや経緯を維持したまま、いつでも手軽に打ち合わせが可能です。AI によるミーティング内容の要約により、参加者は議事録から解放され、話し合いに専念できます。より強力な音声・ビデオ通話が必要なら、Slack と業界トップクラスのソリューションとの緊密なインテグレーションにより Teams、Zoom、Google、Webex など利用できます。

Slack ユーザーの **83%** が、カレンダーの予定が減ったことや、非同期型のコミュニケーションに移行したことにより、社内コミュニケーションが楽になったと感じています。⁶

ハドルミーティングの平均時間はわずか 19 分。チームはミーティングに費やす時間を減らし、生産性向上に注力できます。⁸

Microsoft Teams



📄 ドキュメントの検索とコラボレーション

動的なファイル共有とコラボレーションには Microsoft Loop を用います。Loop と Teams の連携はユースケースによって異なり、発見されやすさはロケーションや構成に依存します。

コラボレーションに最適なネイティブのドキュメント空間 canvas が用意されています。canvas は会話のすぐ横に表示されるため、誰もがすぐに発見して、ナレッジを共有できます。自動化を組織内に浸透させ、Microsoft のエコシステムを含む、あらゆる連携プロダクティビティツールの定着率向上を促すよう設計されています。

Slack 内での情報探索時間が **36% 減少**。「あのドキュメントはどこ?」と聞いてまわる必要なく、計画と作業を同じ場所で行えます。⁶

📅 タスクやプロジェクトの管理

タスクが重複。さまざまな重複アプリ (Planner、To Do、Lists、Loop) があり、Teams での機能の制約もそれぞれ異なるため、複数タスクを管理するワークフローにおいて混乱が生じます。

シンプルで強力なネイティブの「リスト」機能により、チャンネル内から直接プロジェクトやタスクを追跡。ステータスの自動更新も可能です。

Slack でプロジェクト完了までの期間が **35% 短縮**。仕事について会話しているその場所で、誰が何をしているかを全員が正確に把握して、進捗を追跡できます。⁶

🛠️ 開発者向けツール

開発者向けツールは Microsoft の製品およびツールのスイート全体に対応するように設計されていますが、そのことが開発者にとってさらなる複雑さを招く可能性があります。

Slack はプラットフォーム開発者のために、シンプルな専用の API ツールを提供。きわめて簡単に操作できるワンクリックのインテグレーションフレームワークにより、機能とユーザーエクスペリエンスの一貫性を高めています。カスタムアプリ開発向けの充実した SDK、API、開発者ドキュメントもそろっています。

イノベーションを迅速化。エンジニアリングチームは、数か月ではなく数週間で、実際の業務で真の効果を発揮するカスタムツールを開発できます。

Microsoft Teams



モバイル機能

簡素化された機能。モバイル版では一部の機能がなく、制限されている場合があります。

一般消費者向けのモバイルファースト製品として開発されているため、デスクトップでもモバイルでも Work OS としてフル活用できます。Slackbot、ワークフロー、AI 検索など、完全に同等の機能が維持されます。

仕事に真のモビリティを提供。デスクを離れている時にメッセージをチェックするだけにとどまらず、外出先でも最大限の生産性を発揮できます。

ユーザーエクスペリエンス

ナビゲーションが階層化されており、習得難易度が高い。埋め込まれた Microsoft アプリ経由で機能が提供されるため、クリック回数が多くなり、ユーザーの操作が複雑になります。

G2 での Teams の「使いやすさ」評価スコア(13,000 件以上のレビューに基づく): 8.8⁹

直感的で人間味がある。Slack の設計理念は「考えさせない」こと。Slack 内のすべてがネイティブであり、シンプルに楽しく使えることを目指して開発されています。

G2 での Slack の「使いやすさ」評価スコア(31,000 件以上のレビューに基づく): 9.2⁹

90% の定着率。使いやすさにより、ユーザーは Slack をチャット以外にも活用したいと考え、その結果、データの質が高まり、チームの連携が加速します。²



Microsoft Teams



Slack



ビジネスインパクト

📁 組織全体のコミュニケーション

組織の規模や構造に応じて、さまざまなツールに分かれます。Teams のチャンネルでは、組織全体のチャンネルタイプの場合、最大 10,000 ユーザーまでしかサポートされません。組織全体で 10,000 を超えるユーザーをカバーするには、Teams UI 内の別アプリである Viva Engage、もしくはメールを使わなければなりません。

Slack なら、1 チャンネルで 100 万を超えるユーザーをカバーできるため、組織全体のコミュニケーションに簡単に対応できます。あらゆる組織を統合して、階層のない対話を実現できるよう設計されている Slack では、文化的なコミュニティから趣味のチャンネル、社会的な交流までを大規模にサポートできます。

従業員エンゲージメントが Teams の2 倍。活気あるソーシャルなワークスペースにより、従業員は企業文化や同僚とのつながりを強く感じながら仕事ができます。²

**違いをご自分の目で確かめませんか？
今すぐ個別のデモをご予約ください。**



引用元

1. Slack アナリティクス、Microsoft App Usage by Weekly Active Users (2024 年)
2. Productiv、「SaaS Intelligence Benchmark Series : Slack vs. Microsoft Teams」
3. 2023 年度第 4 四半期「Slack Customer Tracking Survey」
4. 2024 年度 Customer Success Metrics (合計 n=169~175)。
5. CNBC、「The No. 1 workplace distraction」、Microsoft Research の調査を引用 (2023 年 5 月)。
6. 2026 年度 Customer Success Metrics (合計 n=1,744)
7. Slackbot カスタマー向けパイロットプログラムの結果
8. Slack ユーザーに関する社内データ
9. 2026 年 2 月 24 日時点の G2 レビュースコア





本資料は情報提供のみを目的としたものであり、拘束力のある文書ではありません。本資料の情報に基づいて購入の決定をしないでください。プロダクトや機能の開発、リリース、タイミングはすべて Slack の裁量に委ねられ、変更される場合があります。

© Copyright 2026, Salesforce, Inc. All rights reserved.